

# さぬき再犯防止プロジェクト PROS (Prevent Re-Offense Sanuki)

令和4年度 中間報告



# 活動の目的・今年度の活動予定

目的: 地域の方たちが安全に安心して暮らせる社会にするために、**再犯を防止**すること。

再犯の原因には、出所後、身寄りや住居、職がないなどの社会的孤立が大きく影響している。

そのために、犯罪や非行の前歴がある方(以下、対象者)の「**居場所と出番**」づくりのお手伝いをする。また、一般市民の方が差別なく彼らを受け入れる社会づくりに資する活動を行う。

## 活動予定

- ①対象者の置かれている現状についての研修会の実施  
(今年度は、新しい試みとして、依存症に関する勉強会も実施)
- ②対象者との交流 「居場所と出番」づくりのお手伝い
- ③地域の方や学生に現状を知ってもらうための活動
  - i 映画『記憶』 自主上映会
  - ii 大学祭 CAPIC製品展示会

# ①研修会



**目的:** 対象者と接し、再犯防止の啓発活動をする上で必要となる正しい知識を身に付けるため。  
今年度は全9回の研修会を予定している。

## 令和4年 5月9日「傾聴講座及び個人情報保護についての研修」

香川県地域生活定着支援センター所長 福家伸次氏、高松市障がい者基幹相談支援センター 川村圭氏、自立相談支援センター 津田理子氏により、活動をするにあたって個人情報の取扱いに関する注意事項や、本プロジェクトで交流する対象者(主に高齢者・知的障害をお持ちの方)との接し方等について、昨年ご指導いただいた際に録画したものを視聴した(この動画を視聴の上、活動に参加することを義務づけている)。また、バイト先や街中で対象者と出会った場合、どのように振る舞えばよいのか、事例を用いてグループワークも行った。

## 令和4年 9月17日「刑務作業を始めとする矯正処遇と刑務所作業製品等について」

令和4年度の大学祭で開催した「CAPIC製品展示会」に向けて、CAPIC製品や刑務作業、刑務所内での処遇について学ぶために、高松矯正管区課長 寺松広記氏に講師に来ていただき、研修や意見交換会を行った。

## 令和4年 9月30日「刑事弁護と再犯防止活動」

ひらく法律事務所所属の田中拓弁護士に講師をしていただき、刑事弁護の実態や、近年の香川県における再犯防止活動などについて教えていただいた。特に、支援する立場の者の心構えや、対象者と適切な距離感をとることの大切さ等、再犯防止活動への向き合い方について学ぶことができた。

# ①研修会（依存症に関する勉強会）

目的：依存症になった背景を知ること、依存症の改善には何が必要なのか、今後の「居場所と出番」づくりの活動に活かすため。

＜依存症治療に関して県内で最も実績のある三光病院と連携して活動を実施＞

## 令和4年 アメシストのオンラインミーティング（断酒会）に参加

アルコール依存症を抱えた女性の集まりに、学生8名が参加。断酒会とは、断酒をするために、同じ悩みを抱えた仲間に自分の体験談を共有する場所のことである。断酒会は、「言いつぱなし」「聞きつぱなし」といった、人の体験談を口外しないというルールのもと開催されている。断酒会の最後には、三光病院の海野順院長からの依存症に関するお話を聞いた。

## 令和4年6月3日 三光病院でのPROS活動報告

三光病院の職員の方々に活動報告を実施。

再犯防止や「居場所と出番」の必要性、実際の活動内容等を報告した。



## ②交流会

目的:対象者の方のお話を聞くことで、その方を受け入れ、  
その交流自体が対象者の方にとっての「居場所と出番」となるようにすること。

・今年度は昨年度に引き続き茶話会(現在12回実施)と草刈ボランティア(現在2回実施)も実施しており、  
対象者は2人から3人に増えた。

茶話会:絵しりとりなどの遊びを取り入れながら、対象者の方の趣味や休日の過ごし方、  
刑務所での生活についてなどをお話をする(10回実施)。

薬物依存の対象者の方にお話を伺い、  
依存症への理解を深めている(2回実施)。

草刈ボランティア:対象者の方と草刈を行いながら、近況についてお聞きしている。  
今後はカレー作りなどの活動も取り入れる予定である。

※対象者との交流については、教員と香川県地域生活定着支援センターの方の協議の下行っている。また、  
対象者と学生の個人情報~~は互いに共有せず~~、学生は活動中に知りえた個人情報については口外しない旨  
の誓約書を提出し、すべての参加者は「プロジェクト中のニックネーム」で活動している。



# ③ i 映画『記憶』の自主上映会

**目的:** 地域の方や、これからの社会を担っていく若者に知ってもらうことで、非行経験のある少年少女に対する差別を減らし、出院後の少年少女が少しでも立ち直りやすい社会環境にするため。

日時: 2022年7月18日(月)16時30分～

場所: 香川大学 法学部棟 J3・J1教室

参加者: 香川大学 学生約160名 学外の方50名

〈トークセッション登壇者〉中村すえこ監督

由良徹氏(保護観察官)

藤原誠氏(元児童自立支援施設職員/公認心理師)

## (学生へのアンケート結果)

・非行少年に対してのイメージの変化がありましたか

変化があった...50% 「少年だけが悪いのではなく、周囲の環境の問題も大きい」

・映画を見て新たに興味を持ったもの

76.9%... 出院後の処遇    42.3%... 少年院での処遇    34.6%... 保護観察官・保護司の仕事



# ③ ii 大学祭 CAPIC製品展示会

**目的:** 地域の方や学生に対して、再犯防止の現状や、受刑者の生活などを知ってもらい、多様な人を受け入れる社会づくりに資するため。

日時: 10月29日(土)・30日(日) 9:00~18:00

場所: 教育学部棟412教室

内容: CAPIC製品(刑務作業製品)の展示、パネル展示  
(高松矯正管区の協力のもと)

来場者: 約200名



< 来場者のうち、アンケート回答は162名 >

・感想では、「知らない世界が知れた」「普段の生活で知りえない情報を得ることができた」「受刑者について考える機会になった」という意見が多く見られた。

→ 地域の方や学生に、受刑者が行う刑務作業と社会の関係性を知ってもらうとともに、再犯防止への問題意識を持ってもらう機会となった。

# 取り上げられた報道機関等/今後の予定・課題

## <取り上げられた報道機関等>

・7月22日 毎日新聞   ・7月28日 読売新聞

・8月1日 KSB放送 [【特集】女子少年院の今 課題と支援は？ 多くの少女に虐待を受けた 経験も | KSBニュース | KSB瀬戸内海放送](#)

・11月6日 四国新聞

・11月7日 KSB放送

[【特集】大学生が伝える「元受刑者の生きづらさ」再出発できる社会へ 香川 | KSBニュース | KSB瀬戸内海放送](#)



## <今後の予定・課題>

○11月25日 少年鑑別所 谷川雄一氏(内容:少年鑑別所の仕事、少年の再犯防止について)

○11月29日 三光病院 海野順院長(内容:依存症とは、依存症と再犯の関係性について)

○11月30日 茶話会(対象者との交流会) ※茶話会は月に1回実施予定。

○12月14日 教誨師 上野忠昭氏

そのほか、月に1回、定例会というZoomミーティングを実施。プロジェクトの学生・教員・学外の協力者と活動の内容を話し合い、協議している。また、学生同士の交流を深めるため、対面でのミーティングも継続して実施する予定。